

## 第 18 回中井町地域公共交通会議 議事録

日時：平成 28 年 9 月 21 日（水）午前 10 時 00 分～

場所：中井町役場 3 階 3 A 会議室

### 【会議次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 平成 27 年度中井町地域公共交通会議収支決算について **承認事項**（資料 1）
  - (2) 平成 28 年度中井町地域公共交通会議収支予算（案）について **承認事項**（資料 2）
  - (3) お試し回数券（前払い券）の利用状況等について（資料 3）
  - (4) 中井町オンデマンド実証実験の登録状況と利用状況について（資料 4）
  - (5) 今後の取り組みについて **一部承認事項**（資料 5・6）
- 4 その他
- 5 閉会

### 【協議事項の議事】

- 3 協議事項
  - (1) 平成 27 年度中井町地域公共交通会議収支決算について **承認事項**（資料 1）  
（事務局より（資料 1）平成 27 年度 中井町地域公共交通会議収支決算について説明、早野委員より会計監査報告）

会 長：決算及び監査について、質問はあるか。

会 長：質問等なければ承認いただけるか。

－意見なし－

<承認>

- (2) 平成 28 年度中井町地域公共交通会議収支予算（案）について **承認事項**（資料 2）  
（事務局より（資料 2）平成 28 年度 中井町地域公共交通会議収支予算(案)について説明）

会 長：収支予算案について、質問はあるか。

委 員：歳出の事業費で、公共交通利用促進事業費とあるが、具体的にはどのようなものか。

事務局：今後、乗降ポイントが変更になった場合、パンフレット等の修正も視野に入れ予算計上した。

会 長：運行については一般会計から支出しているので、バス停を新設する等は、そちらの経費と想像するが、バスの運行ではなく、会議の費用として計上しているものは何かという質問ととらえるが、パンフレット等を今後用意していくということによいか。

事務局：はい。

会 長：各委員いかがでしょうか。承認いただけるか。

－意見なし－

<承認>

(3) お試し回数券(前払い券)の利用状況等について(資料3)

(事務局より(資料3-1) お試し回数券(前払券)の利用状況等、(資料3-2) 中井町オンデマンドバス利用に関するアンケート集計結果、(資料3-3) オンデマンドバス利用に関する追跡調査アンケートについて説明)

会 長：中身を見ていただきつつ、ご質問ご発言願う。

委 員：無料で配布したものと、有償販売したもので、それぞれの利用実績がわかるか。

事務局：現在、区別はつかない。追跡調査のアンケートで利用したかどうかの質問事項を設け、利用したかどうかを確認したい。

会 長：後々考えると、採取できれば良かったというデータが出てきそうである。例えば、アンケート問5で、この意向が判明したところで、今、我々が何か次に打てる手はないかということである。また、予約が取れないという状況が、現在も続いているのか、もう少し前に顕著だったのかわからないが、自由記述に意見があるのは事実。予約が取れないことで利用をやめた人がどの程度いるかは、判別できないので、自由記述等のおりだが、できるだけ予約が取れるように何か打てる手を考えるくらいしかない。それは、最後の(5)の議題かと思う。

委 員：需要が多い少ないと説明があったが、最初の目標値をどのくらいに設定したのか。現在は、その目標値に対してどのような状況か、比較はできているか。

事務局：このあとに登録状況と利用状況の報告をさせていただくが、一番分かりやすいものと言えば、1日平均乗車人数については、当初の目標を1日40人と設定した。実際、1日平均40人を超える状況にあり、目標自体はある程度達成されてきている状況にある。

委 員：どこまで実績を伸ばそうと思っているか。

事務局：予約が取りにくいといったアンケートの結果があり、実際に予約を受けていてもそういった実感はある。更なる目標は無いが、取りづらさをなくし、なるべく効率的に運行し、さらに利用してもらうような形にしたいと考えている。

委 員：高齢でもまだ動くことができ、マイカーを使う機会がまだまだ多いので、オンデマンドバスを使う人は少ないと感じる。しかし、4～5年経つと徐々にオンデマンドバスに移行していくと思う。そういう時間的な計画があっても良いと思う。

会 長：現在の年齢構成が地区ごとにどのような状況かは調べればわかる。そこも含めて、今後、精査していくことになるのかと思うが、事務局はどうか。

事務局：社会状況は変わっていく。状況に合わせて変えていく必要があると考えている。

委 員：前回会議をやって、色々な質問が出たと思う。その質問に対する回答があってから、この資料の流れにならないと、繋がらないのではないか。

会 長：前回の振り返りということで、事務局、何かありますか。

事務局：前回資料は、ホームページに掲載しているが手元には用意できていない。今回は冒頭で振り返りについて説明させていただく。

会 長：（３）の内容は（４）とセットだと思う。（４）の話を先にしていただき、質問をお受けし、その後（５）という流れでいかがか。

（４）中井町オンデマンド実証実験の登録状況と利用状況について（資料４）

（事務局より（資料４）中井町オンデマンドバス実証実験の登録状況及び利用状況について説明）

会 長：１日平均４０人ほど、週５日間運行で、一月８００人前後の利用がある。８月の利用が少ないのは、小学生の利用が無いからと思われる。一月８００人なので、年間１万人ほど思っている。経費が年間２,５００万円強とし、単純計算で平均すると、一人当たり２,５００円ほどになる。これが高いか安いかは色々議論があると思う。ただ、その費用をかけても他に手段がない人がいれば必要だという事で、そもそもこのバスは始まったと私は理解している。一人当たり２,５００円かかっていることは認識しつつ、今後を考えこのデータを見たい。

委 員：年代別利用者で、小学生やお年寄りの方が多いいと思っていたが、意外と４０代５０代６０代の利用がある。どのような目的で利用しているか、参考に聞きたい。

事務局：オペレータの受け取る感覚や利用状況を考えて、買い物に利用するケースが比較的多いのかと思う。特に、乗降ポイントの上位に占めている商業施設は、この年代層の利用が比較的多い。

会 長：アンケートでは通勤という人も一定割合いて、例えば、目的地が西友やマックスバリュとなっても、実際には、そこからバスに乗り継いでいる人等がいるかどうか。特に、通勤と書いた人がどのような人か、何かわかるか。

事務局：今回はそこまで調べていないが、前回の会議で町外の目的地の利用状況を資料で提示している。そちらでは、実際に買い物の利用、通勤通学の利用が多い状況となっている。場所によりけりと考えており、商業施設については、乗継等を考えて利用しているという感じは受けていない。ただ、人数は把握していないが、秦野赤十字病院は乗継の利用があると状況の中から見てとれる。

会 長：他はいかがか。

委 員：諦め件数について、件数をゼロにするためには、どのような工夫をすればよいか、単純に便数を増やすということで済むことなのか。

事務局：不調の件数との関係を含め、このあとの議題で説明させていただきたい。

委 員：前回３月の会議で、秦野赤十字病院の利用人数の内訳がグラフで出ている。実際に病院を利用しているのは、１６％で、通勤が５５％。こういったデータが半年前に出ているのだから、次の段階が何かということ今回説明されると考えていた。同じようなアンケートを繰り返しても意味がないと思う。

会 長：それは次の議題で協議したい。まず事務局から説明をもらいつつ、皆さんでより具体的な方策について考えたい。予約不調を減らすということが重要である。また、利用者を

増やすということは、1～2年前に一所懸命取り組んでいたが、今は、より必要な人に、より乗ってもらうには、どのようにするべきか、であると考えている。言いにくいですが、他に手段があるような人で、安いタクシーくらいの感覚で利用している人ならご遠慮いただき、より必要な人、手段がない人に使ってもらう仕掛けを何か上手に考える、そういう方策が必要かと思う。しかし、皆様にぜひ利用いただきたいと思う。

(5) 今後の取り組みについて 一部承認事項 (資料5) (資料6)

(事務局より(資料5-1)乗降ポイントの追加等について、(資料5-2)乗降ポイントの追加場所、(資料5-3)乗降ポイントの追加要望箇所、(資料6)中井町オンデマンドバスと路線バスの今後の対応策について説明)

事務局：今までは、検討までとして取り上げてきた内容もあるが、中井町公共交通総合連携計画の計画期間も来年度までと迫り、一区切りとなることから、オンデマンドバスの需要を見極めるための総括が必要となると思う。資料に挙げた対策は、年内を目途に提案して、皆様にお諮りし、早ければ年度内での運行を目指したいと考えている。皆さんの意見をもらい、良い方向に反映させたい。

会 長：事務局の出したものは、かなり大きな方向性の変化だと私は思っている。基本的には、長距離移動の人は、相対的には別の移動手段に変換が可能であろう。短距離ではあるが、バス停から遠い人などをできるだけ数多く拾えるようにという提案だと考えている。

委 員：乗降ポイントの整理について、商業施設が井ノ口にでき、乗降場所の追加により町内での買い物ができることはいいと思うが、赤十字病院の考え方は、朝、定期路線で送ることはいいが、帰りはどうするのか。そこの整理はしないとイケないのではないかな。

事務局：提案の通り、帰りの部分は設定していない。帰りは、路線バスとオンデマンドバスを乗り継いでもらい、利用していただきたいと考えている。そのためにも、実際に何時にバスが走っているのか、どこのポイントで乗り継ぎができるのか、こういった形でオンデマンドバスに乗れるのか、という点で改善を考えていきたい。

委 員：行きは予約で行けると思うが、帰りが乗り継ぎとなると、帰りの路線バスの時間を調べたうえで、オンデマンドバスの予約をする必要があると思うが、それが煩雑になるので、良い方法が何かないかと思う。

委 員：現状の方法、時間帯、2台の車両で、1日平均40人というのは、実態は飽和状態である。予約しても取れない。秦野駅、二宮駅へ同様の条件で行えば、当然移動時間が長いから余計に利用客は増えない。来年1年でちょうど運行開始5年となる。例えば、コミュニティバスにする等、大幅に変えて色々な方法があると思うが、残り1年で、提案のあった、二宮や秦野の商業施設を廃止し、井ノ口の商業施設へ、転換させるというのは定着できるのか。皆が利便性を感じている場所を、年度内を目途に廃止すると言えば、利用者の意見がどうなるかと疑問に思う。

また、秦野市のコミュニティバスを見ると、毎回3人は乗っている。中井町のオンデマンドバスはほとんどが1人だけなのが現状である。集落が分散しているので、ある程

度、時間を確保しないと運行ができないというのも事実。セミデマンドも方法の一つだが、今の状況では、抜本的なことを変えない限りは厳しいと思う。抜本的な対策を考えていく必要があるのかなと思う。

運転手は、ポイントの前まで行かないと客を降ろさない。乗る時は良いが、降りるときは、乗降ポイントが自宅の近くであれば、自宅のところで降ろしてあげる等、もう少しサービスでやってもらえるといいと思う。

実際問題、利用者がほとんど限られているのではないか。乗降ポイントもあまりにも多すぎると思う。もっと少なくしたほうが、効率的な運営ができるのではないか。

委員：対策の参考事例(P39、40)が、どのような形で今の中井町の課題を解消できるのか、説明がよくわからない。このような参考事例を載せたということは、中井町の対策に有効なものなのだと思うが、この参考事例が、今回の予算も含めた中で適合するのかどうかというところが聞きたい。例えば、これでいい方向に議論をしても、予算がないから無理ということになってしまうと、何も変わらない。次回でいいので、示していただきたい。

委員：提案は、オンデマンドバスは路線バスと協働共存を図りながら両方使って利便性を図ろうというのが目的で、例えば、井ノ口公民館を乗継場所として、中村地区の人は井ノ口公民館へオンデマンドバスで行き、そこから路線バスを使って二宮や秦野へ行くというもの。91便あるため待つ時間が少ない。そういった方法は良いと思う。ただ、参考事例の深谷市がどのようなところかわからないが、中井町の場合、あまりにも駅に近い。二宮であれば、誰かに自家用車で送ってもらえれば、10～15分で行けてしまう。そういう立地だから、はたして今回提案の乗り継ぎという方法がいいのか、議論する必要がある。

事務局：乗り継ぎをいかに軽減するかということです。

委員：乗り継ぎ時間を短くし効率よく運行しようということだろう。意味はわかるが、両駅に一番遠い私の自治会から乗用車だと15分で両駅に行けてしまう。はたして乗り継ぎの場所まで15分20分かかっていくか、地形的な面も含めて、マッチングできるか考えないといけない。

会長：オンデマンドバスは、割引を使っているか否かということよりも、誰も送る人がいない、これでしか救えないような方々に、様々な利用の仕方があると提示することがポイントである。町民の95%は車で直行する、またはバス停まで車で送迎してもらいバスに乗ってくれるのであれば、それはそれで良いと思う。大事なことは、残り5%は救う必要がある方々なので、オンデマンドバスの役割を明確にし、ターゲットを絞ることが重要。安いタクシーみたいに使わないで、ということをアピールすることが必要になる。参考の事例は、オンデマンドの事例ではないため、良し悪しはわからない。ICカードを使わなくても技術的に可能な事例があることを事務局は出したものと思う。

委員：セミデマンド方式、7時～9時の定時定路線運行について、どの地域を回るのか、具体的な路線図、本数等、事務局として素案はあるか。

事務局：ODデータから傾向として見られるのは、中村地区と境地区から秦野赤十字病院に行く需要がほとんどであり、対して井ノ口地区から秦野赤十字病院へ行く利用はあまり多くない。その観点から、どのようなルートとするか考える必要があるが、中村地区と境地

区側から拾うバスというのが、一つ考えられる。

委員：秦野赤十字病院で降りる人がすべて病院に行くわけではなく、別の場所に行くのがほとんどである。ならば、比奈窪までの利便性を確保し、そこから秦野駅まで行く路線バスが来てくれば、ある程度カバーできるのかと思う。秦野赤十字病院まで乗降ポイントが無くていいと思う。二宮も同様。路線バスとどう連携がとれるかと、運賃の問題。上手くできれば、高校生にも利用できると思う。

会長：中村地区から秦野赤十字病院は、比奈窪でバスを乗り継げばいいのだが、現状では直通がない。7時8時9時台は、乗り継ぐぐらいであれば、直通300円で行ける方がいいというのが人情。一方で、バスがあるにも関わらずオンデマンドバスに乗っていて、それにより、町内の別の地区間の予約が取れないのだとすると、町の政策として、恐らくそういう方を優先すべきなのだと思う。秦野赤十字病院へ長距離利用する人に、朝の定時便に乗ってもらい、乗り継いで行ってもらい等にしてもらい、長距離利用することをやめるということは、一案かもしれない。

経費を減らすといっても、2台を1台に減らせば、予約が取れなくなるため、現実的ではない。運行時間帯を短くするというのは話としてはあり得て、例えば、朝7時から、おそらく通勤の利用だろうから、取りやめるということはあるかもしれない。朝7時半～8時くらいになると、小学生が小学校へ行く便は絶対に必要なもので、それが8時15分くらいに小学校から病院行きといった方にするのもいいかもしれない。

1人当たりの占有時間をできるだけ短くし、2台の車でできるだけ予約の数を受ける。1日40人というのは、50人くらいまで増やせる。運賃は短距離なので一人200円くらいとし、運行時間帯を少し短くすることを考えてみると、現在一人あたり2,500円の経費が、1,000円台後半くらいにはなるのではないか。それでも高いが、この手段以外で救えなければ、一人あたり1,000円台後半というのは致し方ない、という政策判断はあってよいと思う。バスを乗り継ぐのが嫌な人のために、運賃300円で、実際一人2,500円かかっているというのは、本格運行では、なかなか説明がつかないと思う。

実証実験期間があと1年少しで終わる。今の方法ではない形を判断するタイミングはどこかで近々あると思うので、それは議論をしないといけない。今できることは、この1年と少しの間にできることをこの数ヶ月で判断して、最後の1年間でやってみようということ。1年半後も踏まえつつ、29年度を考えるというところかと思う。

委員：1年半だから秦野や二宮の商業施設を廃止して、近距離にしたいというのも一つの方向性だが、せっかくこれまで利用された場所を、廃止するのもどうかと思う。

委員：定時定路線以降の時間は、おそらく近距離運行だと思うが、昼間の時間帯の形態は現行を踏襲するのか。

事務局：一台については定時定路線、それ以降の時間は今と同じような形態で考えている。

委員：町外路線をいずれ、すべてに作るわけではないということか。

事務局：もし定時定路線ということであれば、秦野赤十字病院につくり、他の町外施設は廃止にできないかという町の考えです。

会長：井ノ口の商業施設はまだ開店していないか。

事務局：9月29日です。

会 長：その商業施設がまだ開店していない時期に、こちらに行ってくださいというのは言いにくいですが、半年くらい経てば、様子はわかってくるだろう。マックスバリュや西友は確かに距離が長い。このままの方法で運行することは厳しい。一方で、中村下地区からは比較的に近い。つまり、境地区、井ノ口の上の方の地区からであれば、距離が長く、または路線バスがあるから、やめるということも考えられる。予約できないエリアとバス停を設定して、町内からマックスバリュや西友に行ける乗降ポイントを限定する方法はあると思う。西友が好きだから行かせてくれと言われても、それに1人2,500円の税金を使ってやることは厳しい。ただ、買い物の移動をきちんと支えるのは大事で、一定規模の商業施設があるなら、そちらに移行してもらうのは、致し方ないかと思う。通院中の病院を変えることは厳しいが、買い物の行き先を変えてもらうというのは許容の範囲だと思う。予算の中でどう判断して、どのように利用者に納得してもらうかという問題だと思う。

会 長：色々意見をいただいたが、他にいかがか。

会 長：次回開催と議題について事務局より説明いただけるか。

事務局：本日の意見は、町で検証し、年内か年明けには会議を開き、町の方向性を提示させていただきたい。9月29日に井ノ口の商業施設がオープンする。広報やSNS等で乗降ポイントの追加を周知したい。

委 員：井ノ口の商業施設というが、一民間の事業者である。乗降ポイントを設け、なるべく町外ではなく町内にきてもらうというのを主導的にやるべきか、少し疑問に思う。町と商工振興会が一緒になって考えるならともかく、考えた方がいいのではないか。

会 長：将来の再編については、その通りで、今回の9月29日については、乗降ポイントができるということを知るといえることと思う。

委 員：乗降ポイントを増やし、先ほど提案のあった利用のないポイントの廃止や、町外の商業施設は廃止するというのではないのか。

事務局：今回は、廃止しない。次回の会議の中で提示させていただき、廃止させていただきたいという町の考え方です。次回に、今後の検証も含めて提案させていただきたい。

委 員：乗降ポイントが増えるという事と、整理というのは、別ということか。

事務局：今回は、追加部分のみ。それ以外の廃止等については、また合わせた時期で考えたい。

会 長：1の乗降ポイントの追加については、ここで承認いただく事項とし、2番目の乗降ポイントの整理については、いくつかある案の中の1つで、今後数か月の中で検討していく。1の追加についてお認め頂きたい。いかがか。

—意見なし—

<承認>

会 長：次回会議では、事務局から事前に説明資料などを出していただきたい。この場で議論を続けても、おそらく決まらない。事前に意見をいただいて、案を作っていくことになるかと思うので、よろしく願います。

(4) その他

事務局：特にない。

会 長：全体を通して、改めて何かあるか。

委 員：資料5-1の1については承認、2以降については今後の検討で決定ではないということ  
とでいいか。

会 長：そのとおり。1は承認、2以降はこのような提案が事務局よりなされたということ。

会 長：他は、いかがか。

委 員：路線バスの比奈窪折り返し場について、契約は来年の12月までである。神奈中としては  
引き続き借りて比奈窪折り返し場を使っていきたいが、相手方があることで、返還の話  
が出た時に、使えなくなる状況もある。そうなった際、中井町全体の路線バスの計画自  
体に変更せざるを得ないような状況も考えられる。今後、この会議で、進捗をお伝えし  
ながら、進めていきたい。なるべく借りられるように動いていく。

以上

○出席委員：

境地区バス利用対策委員長 石井 伸吉

一般公募委員 廣澤 瀧男

東洋大学国際地域学部国際地域学科教授 岡村 敏之

神奈川運輸支局運輸担当運輸企画専門官 (代理) 高橋 涉

神奈川県県土整備局都市部交通企画課 (代理) 河合 大介

(一社) 神奈川県バス協会常務理事 山崎 利通

神奈川中央交通(株)運輸計画部次長 (代理) 永山 輝彦

(一社) 神奈川県タクシー協会相模支部 露木 幸一

神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 川上 一男

中井町副町長 加藤 幸一郎

中井町福祉課長 山口 秀俊

中井町参事兼まち整備課長 権守 章

中井町老人クラブ連合会長 阿部 昭道

中井町社会福祉協議会長 早野 茂

中井町商工振興会長 金子 貴司

○オブザーバー：

秦野市都市部参事兼公共交通推進課長 保坂 富士雄

二宮町政策総務部政策担当参事兼企画政策課長 志賀 道郎

○事務局：

中井町3名